

令和 6 年度町政懇談会議事録

- 1 日 時 令和 6 年 10 月 8 日（火）9:00～10:46
- 2 場 所 双葉町役場 2 階大会議室（双葉町）
- 3 出席者 伊澤町長、平岩副町長、森副町長、舘下教育長、橋本総務課長兼秘書広報課長、横山復興推進課長、朝田戸籍税務課長、中野農業振興課長、藤本建設課長、中里住民生活課長、相楽健康福祉課長、木幡教育総務課長兼生涯学習課長、高橋課長補佐、松原支援員（14 人）

4 町民出席者 44 人

5 町長あいさつ概要

今年度の町政懇談会は、双葉町の復興状況について、特定帰還居住区域復興再生計画と第 2 期帰還意向調査について、双葉町住宅再建支援事業について説明し、皆さまからのご質問やご意見に丁寧にお答えするとともに、その他のご意見、ご要望等についても意見交換させていただき、今後の町政運営にいかしてまいりたい。

○町内復興の取組について

1) 駅西地区生活拠点等の整備について

町民の皆さまの帰還や就業者、移住者向けの生活環境を整備していた駅西住宅は、今年 5 月に全 86 戸が完成し、現在 74 戸に入居されている。昨年 2 月に開所した双葉町診療所では、週 3 日を基本に内科の診療を行っており、臨時の休診等については、町公式ホームページにおいて随時発信するので確認いただきたい。

2) 駅東地区の整備について

駅東地区は商業を中心とした賑わいを形成するエリアとして整備を進めており、役場庁舎北側の隣接地に建設中の商業施設は、イオン東北株式会社の入居が決定し、令和 7 年度中のオープンを予定。スーパーマーケットがオープンすることで、町内における生活環境が大きく向上し、双葉町にお住まいの方、復興に携わっている方々の日常生活を支えるとともに、これから町内で居住を検討されている方々にとっても、重要な判断材料となることで、更なる帰還、移住定住を促進し、居住人口の増加に弾みがつくものと考えている。町体育館跡地に建設予定の商業施設（飲食店）の整備も進めており、入居する 3 軒の事業者も決定している。昼間から夜間の飲食まで、利用される方々が幅広く食を楽しめる施設となる予定。

3) アクティビティエリアの整備について

双葉町復興まちづくり計画（第三次）において、中野産業団地と復興祈念公園、中間貯蔵施設に挟まれた約 15 ヘクタールの農地を中心とした土地を、アクティビティエリアとして整備する方針を打ち出し、事業化の検討を進めてきた。住民意向調査や復興町民委員会において、かつて海浜公園で整備されていたキャンプ場やバーベキュー場の再整備を求める意見が多く寄せられていることから、アウトドアゾーンをはじめ、運動交流広場など

の配置を検討。また、民間活力を積極的に活用し、初期費用の抑制を図りながら段階的に整備を進めてまいりたいと考えている。

4) 次に特定復興再生拠点区域内の営農再開への取組について

除染後の農地保全管理については、本年度で終了。来年度からの営農再開を目標としているが、既に町内では営農再開に取り組んでいる個人の農業者の方や農業法人によって、今年は約4ヘクタールの農地でブロッコリーなどの栽培が始まっている。

また、農地の基盤整備やほ場整備事業の実施に向け、各地域における調整が進んでいると聞いており、地元のご意向を踏まえ、本格的な営農再開に向けて、担い手の確保とともに一体的に取り組んでいく。

5) 町内の防災対策について

昨年度から防災行政無線の運用を開始し、屋外スピーカーだけでなく、災害時の緊急情報や防災情報を確実に伝えるため、町内に居住されている方、事業者等に対し戸別受信機の貸し出しを行っている。本年7月には、双葉町消防団第二分団に消防ポンプ自動車を配備。旧車両と比べ資機材を豊富に積載できるようシャッタータイプにするとともに、900リットルの水を積載しており火災現場で消火栓に接続することなく、速やかな消火活動を開始することが出来るようになった。引き続き、第一分団にも配備を進めるとともに、今年度中に町内2ヶ所に備蓄倉庫を配置していく。

6) 町内の学校再開について

基本構想では、「英語教育と国際理解教育を基盤とするグローバルな人材育成」を“目指す学び”のひとつとして位置付けている。双葉町学校設置検討委員会では、先進地視察を行うなど、学校施設の構成や配置計画について議論が交わされており、町内での学校再開に向けて、検討を進めていく。

6 説 明

- | | |
|------------------------|------------|
| (1) 双葉町の復興状況について | (横山復興推進課長) |
| (2) 特定帰還居住区域復興再生計画について | (中里住民生活課長) |
| (3) 第2期帰還意向調査について | (中里住民生活課長) |
| (4) 双葉町住宅再建支援事業について | (中里住民生活課長) |

7 懇談概要

(下長塚 男性)

建設課の河川と道路の除草の運動についてお伺いしたい。

1団体2名以上で5,000円ということだが、震災前は自分の家から機械を持って幹線道路に出てクリーン作戦ができたが、離れているところから来るとなると応募者が集まるか心配。金額をもう少し上げることにはできるか。人を集めづらい。運動がうまくいけば宅地の除草にもつながると思うので、もう少し参加しやすい金額に設定できないか。

(藤本建設課長)

5, 000円の根拠は基本的に人件費を含まない。積算根拠は3名を基準として考え、ガソリン代と1日の保険代。他の市町村の事例も参考として調整した。今後まだ検討の余地はあるが、まず今年はこれで進めさせていただきたい。

(下長塚 男性)

これは応募者がいないと成り立たない運動だと思う。特別高額という意味ではないが、なるべく参加しやすい金額で設定していただければ声がかかりやすい。後で金額アップして応募するようになると、お金目当てみたいになるので、最初から設定していただければありがたい。保険と機械の油代を入れるとなかなか大変な状況である。

(伊澤町長)

この考えは、最初は町内の河川を個人で草刈りをやっていただいていた人を数名見受けられたので、費用弁償的なものもお支払いできたらいいが、ボランティアという考えからすると、燃料代を支給しましょうというところからスタートした。町内全域、行政区ごとに今後やるとなったらまた別な対応として考えていく。今スタートしようとするものは町内居住者を念頭に考えていたので、その部分では周知が足りなかった。今後、前のクリーンアップ作戦のような対応は考えていきたい。

(中田 男性)

今の質問に関連して、河川・町道の美化運動は年3回の予定となっているが、1回あたり5,000円の燃料代では、皆さん遠くから来られるので、人を集めるのが大変である。弁当代だけでも出してもらえるとありがたい。

(伊澤町長)

ご指摘のあった考え方と、先ほど説明したものとは内容が違うものであり、あくまでも町内居住者を対象にボランティアで除草をやっていた方に対する補助として考えている。以前やっていたクリーンアップ作戦が各行政区で再開するとなったら、ある程度の補助は検討したい。先ほどのボランティアとしての対応とは別対応として考えていきたい。

(長塚・駅西 男性)

要望になるが、1年ちょっとこの町に住んで気づいたこととして、新しく採用された方や他県からきた職員が多く、町の状況を把握できていないと感じ取られる。役場内で仕事をするのも仕事だが、天気がいい時は各課長かその下の人が5人10人連れて町を歩かせて、町のことを知ってもらわないと職員になった意味がない。

今、町の状況が14年目迎えてこんな状況だと気づかないまま建物の中で仕事をしているよりも、歩かせてノート一冊持たせて自分で気づいたこと、それに対してやるべきことが分かると思う。そうすると問い合わせに対し分からないという回答が少なくなると思う。

(森副町長)

私も4月から県よりまいったので重々承知している。私も時間がある時に町内を散策して、町民の方から声をかけていただいて、コミュニケーションをとるのは大事と実感して

いる。今のご意見を町職員にもできる限りそのような機会を設定できるように努めてまいりたい。

(伊澤町長)

全くおっしゃる通りだと思う。現在の双葉町職員は町外出身者が過半数を占めている。双葉町の行政区とか、町民の顔や名前を把握していない。少なくとも行政区や、町内に住む人のことは知るべきと考えている。

双葉町が震災以降どういう変遷を追って復興してきたのか、最初の避難先が川俣町、さいたまスーパーアリーナ、埼玉県加須市にお世話になってきた。新採用職員などには、埼玉県加須市への視察でどういう避難生活をしていたのか見てもらっている。一気にやるのは時間的都合もあるが、町民の方がどういう避難生活状況だったのか、知らないと言いきの気持ちに寄り添えないということで始めている。町民と話ができる距離感であることも大切である。役場の窓口に行っても声をかけられないので行きづらいというご指摘もある。少しずつ改善できるように取り組んでいきたい。

(長塚・駅西 男性)

今話を聞いて安心した。避難先から双葉に戻って2年経つが、また避難先に戻るようになった。昨年も町長にお願いしたが、サイクリング愛好者が駅西住宅に増えている。

昨年は前田川河川敷にサイクリングコースを作ってほしいと要望したが、時期尚早と言われた。もう一度考えてくれないかと思っている。

(伊澤町長)

ご指摘の件は昨年もお話があった。ただ全体的なインフラの整備がまだまだ時間がかかっている状況。特定帰還居住区域の整備もこれから始めなくてはならない。おおむねのインフラの整備が終わってからになるので、時間をいただきたい。

一方で、ツールドふくしまは全国から600名の方が集まり浜通り地区で大会を行った。県もさらにレベルアップさせていきたいと考えている。県とのジョイントや取組を検討していきたい。

(長塚・駅西 男性)

よろしくをお願いしたい。白河、塙にはサイクリングロードを整備しているところもある。全体の発展に合わせるのも大事だが、私は今年75歳の後期高齢者になった。そういう人もいるのでぜひ前向きに考えてほしい。

(三字 男性)

建設課に聞きたい。町道長塚前田線（双葉中学校～前田に入るところ）の拡幅や今年度橋をかけ替えると区長に連絡がきている。道路拡幅で前田の測量が終わっているようだが、その先の計画を示してほしい。橋を今年度でかけ替えるとお知らせは来るが、田んぼの方にかかるので、営農再開も計画している中で、拡幅工事がいつ頃予定されているのかお聞きしたい。

(藤本建設課長)

今年度、大畑橋の設計をしている。工事にとりかかるのは、用地買収を含め順調にいつて再来年度となる予定である。南側の拡幅部分の計画は、現在検討中である。道に関しても用地交渉の見通しがまだ立っていないので立ち次第工事にかかる。完了予定は早くて4年後となる。

(長塚・駅西 男性)

駅西住宅の造成はいつまでやっているのか。北側の工事をやっているがいつまでやって何を作るのか。羽鳥街道から駅西住宅に入ってくる道路はいつ完成するのか。西側（山側）の工事は何の目的でやっているのか。

(横山復興推進課長)

駅西造成工事は令和8年度完成予定となっている。まずは公営住宅が完成し、その周りは分譲地含めて民間活用できる宅地として準備を進めている。戎川北側も同様に整備している。

(長塚・駅西 男性)

オーバースパスは、いつできるのか。

(藤本建設課長)

復興シンボル軸のオーバースパスは県の工事で令和7年度、令和8年3月完了予定と聞いている。

(長塚・駅西 男性)

県道井手長塚線（原田）から駅西住宅に入る道路はいつできるのか。

(横山復興推進課長)

全体の工事が令和8年度までとなっているので、その間には完成する。詳細スケジュールについては改めて確認して説明する。

(長塚・駅西 女性)

昨年、駅西住宅側には自動販売機が1台もなく大変不便とお話しした。1年経っても自動販売機がない。1台置くのがそんなに大変なのか。駅西住宅は住民も増え診療所もあるが風邪をひいたときや、肺炎・コロナになったときでも水一本買えない。工事業者も飲料水を買うのが大変な状況である。昨年の町長からの説明では、診療所は町有地なので設置検討できると言われた。復興推進課に相談し、どんなドリンクが良いかアンケートもとって提出した。駅西の管理組合もできたので、早めに置いていただきたい。

(伊澤町長)

双葉駅橋上に自販機があるので、ごくごく隣接な場所にあると我々は認識している。ただ希望としてご意見は賜っているので、遅れているが計画はある。自販機の業者も営業利益を考えて希望通りの場所には設置できない。不便で迷惑をかけているが、自販機が無い訳ではなくエレベーターで駅橋上にあるので利用してほしい。

(中田 男性)

双葉花火大会が素晴らしかった。来年以降の継続について伺いたい。花火も素晴らしく、交流人口も多かった。7月中にホテルをとって泊まりで見にきたが、素晴らしいので継続できれば双葉町の名物になると思う。町はどう考えているか。

(横山復興推進課長)

花火大会は煙火協会が主催し観光庁の補助金を使った事業である。来年以降は煙火協会がどう考えているかによると思う。町政懇談会でも「継続してほしい」という声があったということは伝える。

(三字 男性)

今年から除染した田んぼに二分の一固定資産税が課された。この田んぼの一部は町から試験田として使わせてと欲しと言われお貸しした。これから稲刈り等あると思うが、これに付随して、町道の法面がイノシシに荒らされそこに草が生えている。それを刈り払って成形してほしいとお願いしたら、この度やっとされたようだ。

先ほどボランティアで草刈りという話があったが、以前耕作していた時は水路から町道の法面は自分たちで管理してきた。町からお願いされたことはないが、個人でやってきた。無料で借りた田んぼに税金かけて、来年から耕作できるのかまだわからない収入の上がない田んぼに、税金を課するのはどうなのか。私はやり方が早かったのかなと思う。

私は町全般の復興は無理だと思う。駅西側の復旧を急いでくださいと昨年つくばで話したが、それほど復旧されていないように感じる。除染は今水沢地区でやっているが、奥の方はまだ手付かずの状態である。前田地区に貸している土地があるが、その賃貸借契約が切れた。2軒住宅があって2回立ち合いしたがまだ取り壊されていない。これも5年、6年かかるのか。復旧復興が進んでいるような説明をするのはわかるが、現実進んでいる所とない所とある。先ほどの草刈りもボランティアというが、窓口があって町が管理しないとすれば怪我した時に誰が責任を負うかという話になる。総合的に考えて進めていただきたいので町長の考えを伺いたい。

(伊澤町長)

避難指示解除した区域全てのが復旧が進んでいると言われるとそうではない。ただ、昨年よりは今年、色々なものが動いてきている。進むべきものは着実に進めていると考えている。農地の件については農業振興課長から説明させる。

家屋解体については2回立ち合いがあったのにまだ進んでないという話だが、解体の時期等については環境省の対応。環境省がどう考えているか確認してご報告させたい。

(中野農業振興課長)

農地を一反ばかりお借りして試験栽培をしているところ。税金については、来年の1月1日時点で引き続き町で借りているので来年度の固定資産税は非課税となる。

(藤本建設課長)

法面について、建設課で全てを把握することはできない。皆様からの情報提供をいただいてその都度対応させていただきたい。

（建設課松原支援員）

被災家屋の解体について、後ほど土地の地番を個別にお伺いして回答させていただきたい。拠点区域の中での被災家屋の解体については現在160件ほどお待ちしております。一般的な被災家屋については来年度中に解体する予定。さらに西側の特定帰還居住区域では早い行政区では今月中から除染・解体を新たに始める。その先は2020年代をかけて避難指示を解除すると国も約束をしているので、残り5～6年で避難指示解除を迎えられるように除染・解体・インフラ復旧を進めていくのでよろしくお願ひしたい。

（下長塚 男性）

学校建設についてお伺ひしたい。図書館も一緒にできるという話だが、計画でその図書館は一般の人が自由に出入り・利用できるのか。

（館下教育長）

学校には図書館が必要なので、その図書を町民の方にも使っていただけるように検討しているところである。元々町にはあれだけの図書館があったので、それと同じものを造るかも検討中である。電子図書なども利用いただけるように検討している。

（下長塚 男性）

一般の人でも自由に図書館に出入りできるようになると、図書館を介して学校に自由に出入りするようになるのでは。セキュリティ上問題になるのではないか。

（館下教育長）

おっしゃるとおり、町民の利用もできる複合施設として検討しているが、その裏にはセキュリティの問題がある。先進校視察等もしてきているので、確実にセキュリティを重視して進めていきたい。

（長塚二 男性）

職員の元気がない、挨拶ができないと、町民から苦情を受ける。いつ行っても窓口に行くと、職員は一心不乱にパソコンを見ている。顔を上げない、こちらを向かないというのがあるようだ。役場に行きたくないと言う声もあった。挨拶ぐらいはどうなのという話はしていただきたい。

双葉町は定数より職員が減っている。少数精鋭で頑張っていると思うが、町政懇談会も来たいが足がない、足が遠い人が結構いると言われる。私は住民一人一人がきちんとすべきではないかと思っているので、足がないなら迎えに行くと言っても口下手だからと断られた。課長2～3人で良いので、来てもらって話を聞いてもらいたい。そうじゃないと双葉町から人が離れていく。それぞれの悩みや問題を聞いてもらいたい。すぐに返事ができないのはわかるのでまずは話を聞く場を設けてほしい。

（伊澤町長）

挨拶については、町長就任当初から言っているおり、朝礼でも町民から指摘があると話しているが残念ながら出来ていない。それをどう直すか、今個人の権限権利が強くなっているのも、あまり強く言うとパワーハラスメントになる。挨拶したら気分がいいでしょう。恥ずかしいのか、個人に聞き取りはしていないのでわからないができていない。各課にチェックする、挨拶できる人をおいたらどうかと提示しているが、それもままならない。

どうしたら改善できるか悩ましい事象。ご提言があれば実行したい。挨拶など TPO できなくても仕事はきっちりやっている職員は結構いるので、改善して役場に行きたいと思ってもらえるようにしたい。

(中里住民生活課長)

住民生活課で令和4年度にコミュニティに関するアンケートを実施。その中で職員と住民の話し合いの場がないという声を受けたので、昨年初加須市でコミュニティ交流会を開催した。町の映像や町に対してのお考え・ご意見をいただき、持ち帰って対応した。

今年度は4か所(つくば・仙台・白河・加須)で開催予定。挨拶のご指摘はそこでもいただいた。地元の市役所に問い合わせができないので代わりにやってほしいと言う声もあった。担当各課に報告し、全体的なことは町長まで文書で報告も行った。役場に対する厳しい意見が多かったが、聞いてよかったと思っている。今後皆さんの意見をどうするかが我々職員の役割であるので、住民の方にご意見を聞かせていただければと思っている。

(転入予定者 女性)

アメリカに10年間いて、双葉が復興頑張っていると聞いてお力になればと思って事業をしようと思い移住してきた。ここ1週間、たまたま入ったお店で元々の住民や移住者と話して思った。外から入ってきた移住者の目線として、役場と町の住民の足並みが揃っていない。復興を頑張りたい、入ってきた事業者や民間と役場との足並みもあっていないと感じた。

全部を役場がやる必要がないと思うが、バイタリティある民間を会わせてピックアップできる場を設けてもらえたらビジネスチャンスを見つけやすい。

自販機の話があったが、自販機を設置するのは民間からすると難しいことではない。具合が悪い時に駅の上まで行くのもしんどい。需要や意見を出し、それを民間がピックアップできる場がほしい。役場・住民・民間が3者で意見を出せる場があれば良いと思う。

(伊澤町長)

役場だけですべて受けられないのはおっしゃるとおり。民間の組織も作っているが、うまく機能していないのが現状。自販機の件は、駅西には生活弱者や高齢の方もいると想定して西側東側両方にエレベーターをつけている。移動の距離的には診療所までとそんなに変わらないので、いただいた意見とは齟齬があるかと思う。民間と行政の連携についてはしっかり対応していきたい。

(長塚・駅西 男性)

宮城県から移住して4ヶ月。楽しく生活させてもらっている。1点目コミュニティを再生していくためにはどうしたらいいか。近隣を見ていると、元々の町民と移住者がタッグを組んで色々な取組ができている所はうまく回っていると思う。双葉は帰ってきた方が高齢の方が多く、タッグを組むのがなかなか難しいと感じている。足りないところは役場で補ってほしいと感じている。

2点目イオンが来年夏に完成予定。今は移動販売を毎週利用させてもらっているが、利用者の多くがご高齢の方で、買い物が終わって重たい荷物を運ぶ姿を見ると、駅舎を越えて東口から帰るのはご負担じゃないかと想像した。移動販売を継続するか、アンケートを取るなどして判断材料としていただきたい。

3点目議会を2回傍聴させてもらってびっくりしたが、女性がいらない。人事のこともあるのですぐには難しいと思うが懸念している。

(伊澤町長)

人事について、幹部職員や議員に女性がいらないという意味だと思う。町長に就任してから女性課長を以前2人登用した。その後登用したくて打診したが断られた。女性だから、男性だからではなく、たまたま男性しか優秀な人がいなかったら男性しかいないし、女性で優秀な人がいたらどんどん登用したい。

議員についても、東北の閉鎖的な風習があるのなかなか女性が出てこない。新しく移住された方がどんどん前に出て改革できるものはご指摘をいただきたい。駅西住宅の狙いは、移住者と元々の町民が仲良く生活できることが我々の思いである。人間の付き合いなので難しいが、我々もできることは協力したい。

(横山復興推進課長)

移動販売について、双葉町にイオンの店舗ができれば移動販売を廃止するとは考えていない。どのように移動販売を継続できるかをイオン、浪江町を含めて協議しているところである。

(中里住民生活課長)

コミュニティ再生については全庁的に取り組んでいきたいと思っている。

(長塚二 男性)

挨拶については、町自体が「挨拶をする町」とか、双葉町全体的が「健康に特化した町」とか、改善したいことや不便なことは町をあげて標語でも作って改善できたら良いと思う。

(相楽健康福祉課長)

双葉町としてもメタボが多いとか、高血圧が多いとか、双葉町民の傾向として出ている。取組やすい運動として、スローガンを掲げて皆さんが介護にならないような取組をできるところからやっていきたいので応援していただきたい。

閉会 10時46分